

白 彊 前 進

NO. 7 平成28年9月12日(月)

附属新潟中学校 学校だより

※ 白彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の詞から)



書：坂井昭彦教諭 構成：田代豪教諭 (縦80cm 横4m)

温故知新 —横断幕完成に寄せて—

副校長 津野 庄一郎

生徒玄関に大書して掲げられる「自主独立、協同」の6文字、初めて私が附属に赴任した20年前からすでに在りました。その意味や価値を実感するのにそう多くの時間はかかりませんでした。演劇活動、すなやま完歩大会、スキー教室(舞子国際から池の平へ)、集大成としての旅(尾瀬の旅から沖縄の旅へ)、公立校にはない附属の特色ある伝統行事は、すべて生徒が主体となって企画・運営し、そのどれもが感動的でした。平成9年の創立50周年、生徒会が中心となって、「私たちにあって制服とはなにか」、「服装のきまりは必要なのか」を徹底的に議論し、一人一人が内面の充実を求めて、仲間と切磋琢磨しながら、精一杯努力することが大切だという結論を導き、「制服の自由化」に踏み切ったこと。これもまさに「自主独立、協同」を地で行く姿と言えましょう。

「自主独立」は、戦後間もない昭和22年の開校(新潟第一師範学校男子部附属新潟中学校)当時からすでに存在していたようです。教材や教具こそ十分ではなかったものの、教師と生徒とで毎時間、学習活動を想像して知識を深め、感性を磨き、互いに人格者としての誇りを大事に、よさを認め合って規律と自由をわきまえた校風を芽生えさせていったと、先達は語っています。(旧同人嘉村副校長)

「協同」は、昭和54年に新たに加えられた2文字です。自主独立の精神のもと、みんなで一つのものをやり遂げるために必要なことは何かを追求した結果生まれたものだと、当時の生徒会委員長が回想しています。(創立40周年記念誌)

「自主独立、協同」、この附属中学校に脈々と受け継がれる崇高な精神を、現代社会や学校生活に当てはめて考えてみるたびに、私は「自らを厳しく鍛え、相互に錬磨し合う」そんな凜とした思いに至ります。折しも来年は創立70周年、「故きを温ねて新しきを知る」そのよい機会になればと祈ります。

※横断幕は、9月26日(月)の新人大会激励会の際に体育館ステージに掲げて生徒に紹介し、それからは同所に掲げておきます。ご来校の際にはぜひご覧ください。

新潟市国際交流推進事業に参加

新潟市国際交流推進事業に応募し、選出された森岡祥平さん(3年)が、夏休みにロシアを訪問しました。ロシア極東のビロビジャン市とハバロフスク市を訪れ、両市の市長を訪問したり、ホームステイを経験したりしました。また、森岡さんは訪問団の生徒代表を務めました。

今回は、新潟市に提出した本人の作文を紹介します。

困難への挑戦

新潟大学教育学部附属新潟中学校3年 森岡 祥平

新潟市国際交流推進事業のロシア派遣では、毎日が新鮮で様々なことを体験を通して学ぶことができました。その中で、心に残った出来事を二つ紹介します。

一つ目は、市長を訪問したことです。私は、ビロビジャン市とハバロフスク市の両方で市長訪問をさせてもらいました。どちらも、会議室のようなところだったので、とても緊張し、それに押しつぶされそうでした。市長訪問では、それぞれの都市の良いところや、新潟市の良いところの意見交流が中心でした。私は、二回の市長訪問のどちらにおいても生徒代表として質問を行ったり、質問を受けたりしました。質問された内容に適した内容を瞬時に考え、分かりやすく相手に伝えるということは大変難しいことであると、このとき痛感しました。私の考えたことが相手に分かりやすく伝わったかどうかは分かりませんが、何とかやり遂げたことで自分への自信となりました。今後、同じような場面に何度も遭遇すると思いますが、今回の反省や経験を踏まえて乗り越えていきます。

二つ目は、ホームステイについてです。私は、二つの市でホームステイをしました。ビロビジャン市で一泊、ハバロフスク市で二泊しました。ビロビジャン市は、新潟とは違い、自然が豊かで空気がおおいかったです。また、自分でロシアの食べ物を料理しました。ハバロフスク市では、博物館や銅像など、歴史的なことを学びました。ハバロフスク市は経済が発達しているのか、とても都会的なイメージを受けました。新潟市とハバロフスク市の友好関係の40周年を記念する石碑などが公園にあり、新潟市が国際交流を長い間続けてきたのを知ったのと同時に、これからはさらに50年、60年と続いてほしいと思いました。ホームステイは、ロシアの生活や文化を体で感じることができた貴重な経験でした。

今回のロシア派遣では、毎日が新しいこととの出会いだったと同時に、言葉が通じず、うまく自分の思っていることを伝えることができないという困難にもぶつかりました。今後の課題が明確に見えたので、残りの中学校生活でこの経験を基に自分を成長させたいと思います。

新潟ジュニア俳句大会の結果

第10回新潟ジュニア俳句大会で、当校から多くの生徒が入選しました。9月5日にホテルオークラ新潟で行われた表彰式では、入選者を代表して「特選」を受賞した遠藤綾さん(3年)が喜びの言葉を述べました。上位入賞した作品を紹介します。

【特選】	八月や広島想う祖父の顔	3年	遠藤 綾
【優秀賞】	降り積もる雪の重みに耐える枝	2年	小川佳弥乃
【優秀賞】	陽炎の向こうでゆれる祖母の顔	3年	田中 海央
【優秀賞】	夕焼けが照らす部員の最後の絵	3年	松崎 祥子
【優秀賞】	台所祖母のひたいに汗光る	3年	山本日向子